

## 公立・公的医療機関等2025プランの修正

岩 国 市 立 美 和 病 院

岩 国 市 立 錦 中 央 病 院（ 参 考 ）

岩 国 市 医 療 セ ン タ ー 医 師 会 病 院

# 岩国市立美和病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年10月 策定  
令和元年12月 改定

【岩国市立美和病院の基本情報】

○医療機関名：岩国市立美和病院

○開設主体：岩国市

○所在地：山口県岩国市美和町渋前1776番地

○許可病床数：

（病床の種別） 一般 60床

（病床機能別） 急性期 60床

○稼働病床数：（平成30年度実績）

（病床の種別） 一般 48床

（病床機能別） 急性期 48床

○診療科目：内科、外科、小児科、整形外科、眼科及び神経科

○職員数：

・ 医師 3.3人

・ 看護職員 36.7人

・ 専門職 7.7人

・ 事務職員 9.2人

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

- 本圏域は、岩国市及び和木町の1市1町で構成されており、3つの有人離島を有し、面積は山口県全体の14.5パーセントを占めている。  
地理的には、東部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進み、交通アクセスにも難がある。
- 岩国市北部の玖北地域は、面積454.05平方キロメートルと市全域の約52パーセントを占めているが、そのほとんどが林地であり、僅かな平坦地に農地や住宅地が点在している中山間地域となっている。
- 玖北地域の人口は、平成31年4月1日現在8,228人、高齢者人口4,325人、高齢化率52.6パーセントとなっており、令和2年度の将来推計人口は7,661人、高齢者人口は4,177人、高齢化率54.5パーセントを見込んでおり、高齢化が進んでいる。
- 玖北地域の医療資源としては、錦中央病院と美和病院が救急告示の指定を受けており、一次及び二次救急患者の受け入れを行っているほか、市立の無床診療所が1か所、民間の無床診療所が4か所となっている。

### ② 構想区域の課題

- 医師、看護師等の医療従事者の不足  
(特に両市立病院の常勤医師の確保)
- 需要が増加する救急医療への対応  
(三次救急医療機関への移動は60分以上かかる地域もあり、重症者は必要であればドクターヘリの活用や応急処置を行い医師同乗での搬送を行っている。)
- 回復期機能を担う病床の不足  
(両市立病院とも、1病棟でいろいろな機能を持ち合わせている。)
- 24時間対応の訪問看護、かかりつけ医など在宅医療提供体制の確保  
(訪問診療・訪問看護への取組が遅れている。)
- 介護施設等の受け皿の確保と連携の強化  
(嘱託診療を行っているがマンパワーが足りていない。)
- 小児・周産期医療、旧郡部などにおけるへき地医療の確保  
(地域医療の確保のため、両市立病院ともかかりつけ医の役割も担っている。)

### ③ 自施設の現状

#### ○病院の理念

私たち病院職員は市立の病院に従事する者として、また医療に携わる者として日常の業務において以下のことに努めます。

- ・患者さん及び家族と十分なコミュニケーションを図り、信頼関係に基づいた医療を行います。
- ・患者さんに良質な医療を提供するために進歩する医療の知識と技術の習得に励みます。
- ・患者さんのみならず家族の方にも安心でき、落ち着いて療養できる環境を提供します。
- ・患者さんならびに家族の人間性を尊重すると共に多様な価値観の共存に努力します。
- ・生命の尊厳に対して謙虚な姿勢をとります。

#### ○診療実績(平成30年度)

- ・届出入院基本料 15対1
- ・1日平均入院患者数 38.6人
- ・平均在院日数 35.0日
- ・病床利用率 64.3%
- ・1日平均外来患者数 101.4人
- ・救急搬送受入数 193件
- ・訪問看護実績 1,593回(244日、59人)

#### ○特徴

- ・二次救急医療機関
- ・政策医療(5疾病5事業及び在宅医療)  
がんの療養支援(胃、大腸、肺、子宮並びに肝臓)、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患及び糖尿病並びに救急医療、へき地医療並びに在宅医療
- ・他機関との連携  
市内中心部あるいは隣接市にある総合病院と連携をとり、高度医療を要する患者を紹介するとともに急性期治療終了後の患者や近隣の開業医からの紹介を受け入れる。  
町内の特別養護老人ホームや福祉施設の協力病院として嘱託診療を行っている。  
また、訪問看護・訪問診療を行い、それに伴いケアマネージャー、地域包括支援センター、福祉施設と定期的な会議をもち、情報交換や連携の強化を図っている。

### ④ 自施設の課題

#### ○医師の確保が困難

○高齢化の進行や人口の減少等により受診者の減少が見込まれる。

#### ○新病院の建設

病院施設の耐震性に疑問ありの診断が出ていることと、施設の老朽化が進行し、設備の不具合も生じているため、新病院建設計画を早期に着実に実施する必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 初期診療から慢性期診療まで幅広く担う地域の拠点病院としての機能
- 住民が等しく適切な医療サービスを受けられるよう、へき地医療の維持・確保
- 救急告示病院として、医療機関の少ない地域における初期～二次救急医療の確保
- 訪問看護・訪問リハビリテーションや看取り等の機能を推進と、地域包括ケアシステムにおける中核機能
- 地域包括ケア病棟の設置を検討と、高度急性期病院や介護施設等との連携強化
- 認知症患者への対応強化と、精神病棟を持つ病院等との連携強化
- 想定される大規模災害時における医療体制の確保
- 臨床研修や総合診療専門医養成のための研修施設として研修生の受け入れ

② 今後持つべき病床機能

- 地域医療の確保の観点から、救急を含めた初期診療から慢性期までの病床を保有する。
- 将来の人口減少を鑑みて、病床を一部減少させる。
- 急性期を原則とするが、圏域に不足する回復期の機能を確保するため、急性期の一部を地域包括ケア病床への機能変更を検討する。
- 地域の在宅医療の後方支援を行う。

③ その他見直すべき点

- 圏域全体の中で、地域の特性を勘案しながら、病院の機能や医療サービスの提供体制等について見直しをしていく必要がある。
- 新病院建設を契機に、これから必要となる機能に対応できるような施設整備を行う。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	60床		45床
回復期			
慢性期			
(合計)	60床		45床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	美和病院あり方検討会 美和病院あり方ワークショップ		<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">                     集中的な検討を促進 2年間程度で                 </div>
2018年度	美和病院あり方検討会	新病院の基本構想策定	
2019～2020 年度	新病院基本設計業務 新病院用地の造成工事 地域包括ケア病床に関する検討	新病院における地域包括ケア病床について方針決定	<div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">第7期 介護保険 事業計画</div> <div style="background-color: #90ee90; padding: 5px;">第7次医療計画</div> </div>
2021～2023 年度	新病院新築工事及び開院		<div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 5px;">第8期 介護保険 事業計画</div> </div>

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<u>医療提供に関する項目</u>	
・ 病床稼働率 :	76.0%
・ 手術室稼働率 :	—
・ 紹介率 :	20.0%
・ 逆紹介率 :	30.0%
<u>経営に関する項目*</u>	
・ 人件費率 :	53.0%
・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 :	0.25%

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--



【参 考】

# 岩国市立錦中央病院 公的医療機関等2025プラン

平成30年10月 策定

【岩国市立錦中央病院の基本情報】

○医療機関名：岩国市立錦中央病院

○開設主体：岩国市

○所在地：山口県岩国市錦町広瀬1072番地1

○許可病床数：

（病床の種別） 一般 58床

（病床機能別） 急性期 58床

○稼働病床数：（平成29年度実績）

（病床の種別） 一般 57床

（病床機能別） 急性期 57床

○診療科目：内科、外科、整形外科、脳外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科及び皮膚科

○職員数

- ・ 医師 4.6人
- ・ 看護職員 37.6人
- ・ 専門職 9.0人
- ・ 事務職員 5.0人
- ・ その他職員 6.0人

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

- 本圏域は、岩国市及び和木町の1市1町で構成されており、3つの有人離島を有し、面積は山口県全体の14.5パーセントを占めている。  
地理的には、東部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進み、交通アクセスにも難がある。
- 岩国市北部の玖北地域は、面積454.05平方キロメートルと市全域の約52パーセントを占めているが、そのほとんどが林地であり、僅かな平坦地に農地や住宅地が点在している中山間地域となっている。
- 玖北地域の人口は、平成28年4月1日現在8,867人、高齢者人口4,513人、高齢化率50.9パーセントとなっており、平成32年度の将来推計人口は7,661人、高齢者人口は4,177人、高齢化率54.5パーセントを見込んでおり、高齢化が進んでいる。
- 玖北地域の医療資源としては、錦中央病院と美和病院が救急告示の指定を受けており、一次及び二次救急患者の受け入れを行っているほか、市立の無床診療所が1か所、民間の無床診療所が4か所となっている。

### ② 構想区域の課題

- 医師、看護師等の医療従事者の不足  
(特に両市立病院の常勤医師の確保)
- 需要が増加する救急医療への対応  
(三次救急医療機関への移動は60分以上かかる地域もあり、重症者は必要であればドクターヘリの活用や応急処置を行い医師同乗での搬送を行っている。)
- 回復期機能を担う病床の不足  
(両市立病院とも、1病棟でいろいろな機能を持ち合わせている。)
- 24時間対応の訪問看護、かかりつけ医など在宅医療提供体制の確保  
(訪問診療・訪問看護への取組が遅れている。)
- 介護施設等の受け皿の確保と連携の強化  
(嘱託診療を行っているがマンパワーが足りていない。)
- 小児・周産期医療、旧郡部などにおけるへき地医療の確保  
(地域医療の確保のため、両市立病院ともかかりつけ医の役割も担っている。)

### ③ 自施設の現状

#### ○病院の理念

私たちは、地域の人々にいつでも、だれにでも、より良い医療を提供し、愛され、親しまれ、信頼される病院づくりに努めます。

#### ○基本方針

- 1 医学の進歩に対応した医療の質の向上に努めます。
- 2 地域住民の要望に応え、生命と健康をまもります。
- 3 明るさと、やさしさと、思いやりをもって患者に接し、インフォームドコンセントを基本とした医療に努めます。
- 4 患者が安心して、何でも相談できる病院づくりに努めます。
- 5 医療機関及び保健・福祉施設との連携を図り、地域の中核病院としての役割分担を認識した医療の提供に努めます。

#### ○診療実績(平成29年度)

- ・届出入院基本料 15対1
- ・1日平均入院患者数 43.6人
- ・平均在院日数 30.1日
- ・病床利用率 75.2%
- ・1日平均外来患者数 95.9人
- ・救急搬送受入数 107件

#### ○特徴

- ・二次救急医療機関
- ・政策医療(5疾病5事業及び在宅医療)  
がんの療養支援、脳卒中の初期診療・予防、心筋梗塞等の初期診療・予防及び糖尿病初期治療並びに救急医療、へき地医療並びに在宅医療
- ・他機関との連携  
高度医療を必要とする患者は総合病院等へ紹介している。  
地域内のクリニック等医療機関と在宅患者の入院受け入れについて連携している。
- ・その他  
へき地医療協力病院として、錦須川診療所、錦高根診療所、錦宇佐診療所の3か所の附属診療所を運営している。  
平成30年度は、市立本郷診療所(へき地診療所)の運営についても携わっている。

### ④ 自施設の課題

#### ○医師の確保、医療スタッフの確保が最重要課題

#### ○在宅医療の推進

- ・高齢化の進行に伴い必要性が増してきている訪問診療や訪問看護など在宅医療への対応が遅れているため、体制強化をするため準備を進めている。

#### ○病床機能の一部変更

- ・病床の一部を地域包括ケア病床に変更することについての検討  
45平方メートル以上の機能訓練室が必要。(必要なスペースの確保が難しい。)  
専従の理学療法士や専任の医師の確保も必要。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- 地域に唯一の病院として、初期から慢性期まで患者の受け入れには柔軟に対処していく。
- 救急告示（二次）の指定を受けているため、基本的には現在の病床機能を維持する。ただし、一部病床の機能変更について、引き続き検討する。
- 訪問看護部門や地域連携部門を充実させ、訪問診療、在宅医療の推進を図る。
  - ・病室の一部をムンテラルームやスタッフの控室等に用途変更する。
- 地域の救急医療提供体制の確保
  - ・市内中心部まで1時間余り時間を要する立地条件にあることから、この地域の救急医療提供体制を維持していくため当院の役割は重要である。
- へき地医療提供体制の確保
  - ・総合診療医や内科医育成の専門プログラムの連携施設、特別連携施設として研修に協力し、将来のへき地医療の担い手となり得る人材育成に努める。
  - ・旧玖北地域は患者だけでなく、医師の高齢化も進んできており、この地域の医療提供体制の維持、地域包括ケアシステムの円滑な運用のためにも、この地域の中核的な医療提供機関としての役割を果たす必要がある。

② 今後持つべき病床機能

- 地域医療の確保の観点から、救急を含めた初期診療から慢性期までの病床を保有する。
- 将来の人口減少を鑑みて、病床を一部減少させる。
- 急性期を原則とするが、圏域に不足する回復期の機能を確保するため、急性期の一部について地域包括ケア病床への機能変更を検討する。
- 地域の在宅医療の後方支援を行う。

③ その他見直すべき点

- 直営診療所の運営
  - ・3か所の附属診療所について、診療所周辺の人口減少、道路状況の改善によるアクセス時間の短縮、症状の変化等に伴い本院での診察へシフトしてきた等の理由により附属診療所の患者数が減少している。そのため、診療所の運営について見直しを行い、医師が訪問診療等に携わる時間の確保にもつなげていきたい。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	58床		53床
回復期			
慢性期			
(合計)	58床		53床

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block;">                     集中的な検討を促進 2年間程度で                 </div>
2018年度			
2019～2020年度	病室機能の一部を用途変更 在宅医療への取り組み  地域包括ケア病床導入可否の検討 多職種による連携体制構築 へき地医療の維持・確保	病床数削減、ムンテラルーム、 スタッフスペースの確保 訪問看護開始、訪問診療先の拡大 地域包括ケア病床導入可否の決定 地域包括ケアシステム運用 総合診療専門研修医受入	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block; width: 100px;">                     第7期 介護保険 事業計画                 </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block; width: 20px;">                     第7次 医療 計画                 </div>
2021～2023年度	訪問診療・訪問看護の充実  多職種による連携体制の充実  へき地医療の維持・確保	訪問先の数の増加  後方支援医療機関として連携する地域の医療機関を増やす。  へき地医療を担う医師の確保	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block; width: 100px;">                     第8期 介護保険 事業計画                 </div>

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<u>医療提供に関する項目</u>	
・ 病床稼働率 :	85.0%
・ 手術室稼働率 :	—
・ 紹介率 :	20.0%
・ 逆紹介率 :	50.0%
<u>経営に関する項目*</u>	
・ 人件費率 :	50.0%
・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 :	0.15%

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

# 岩国市医療センター医師会病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年10月 策定  
平成30年10月 改定  
令和元年7月 改定



【岩国市医療センター医師会病院の基本情報】

医療機関名：岩国市医療センター医師会病院

開設主体：一般社団法人岩国市医師会

所在地：山口県岩国市室の木町3丁目6番12号

許可病床数：181床

(病床の種別) 一般(急性期一般1 38床 地域包括ケア1 93床 回復期リハ50床)

(病床機能別) 急性期 38床

回復期 143床

稼働病床数：181床

(病床の種別) 一般

(病床機能別) 急性期・回復期

診療科目：

内科・外科・小児科・整形外科・放射線診断科・循環器内科・消化器内科・  
血液内科・内分泌内科・腎臓内科・人工透析内科・麻酔科・脳神経外科・  
ペインクリニック内科・泌尿器科・リハビリテーション科・緩和ケア内科・  
脳神経内科・歯科

職員数：

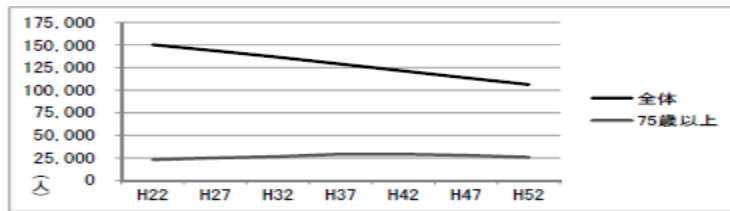
・ 医師	10人
・ 看護職員	134人
・ 専門職	129人
・ 事務職員	32人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

本圏域は、岩国市、和木町の1市1町で構成されており、3つの有人離島を有し、面積は、県全体の14.5%を占めています。人口は、平成22年の150,235人が、平成37年には128,851人（平成22年比-14.2%）、平成52年には106,196人（同-29.3%）に減少すると予測されています。一方、75歳以上人口は、平成22年の22,967人が、平成37年には29,046人（同+26.5%）に増加した後、平成52年には25,825人（同+12.4%）に減少すると予測されています。

岩国保健医療圏の人口推移



医療機関・病床の状況

本圏域には、17の病院と129の一般診療所、70の歯科診療所、92の薬局があります。また、平成27年病床機能報告結果によると、高度急性期506床、急性期393床、回復期193床、慢性期732床となっており、回復期の病床が極端に少ない状況にあります。

本圏域には、高度急性期・急性期医療を担うDPC病院が2病院ありますが、旧錦町・旧本郷村で病院までの移動に60分以上を要する地域があります。

岩国市病床機能報告と必要病床数の比較

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	未選択	合計
H27病床機能報告	506	393	193	732	0	19	1843
必要病床数	131	419	446	505			1501
差	375	△26	△253	227	0	19	342

② 構想区域の課題

構想区域（保健医療圏）における課題

- 医師、看護師等の医療従事者の不足、特に中核的な医療機関における不足
- 他の圏域（柳井、周南、広島西、広島等）への患者の流出（圏域における必要な医療機能の不足）
- 高度急性期機能を担う医療機関の機能強化
- 需要が増加する救急医療への対応（初期・二次・三次救急医療提供体制の確保、適正受診についての住民の理解促進等）
- 回復期機能を担う病床の不足
- 24時間対応の訪問看護、かかりつけ医など在宅医療提供体制の確保
- 介護施設等の受け皿の確保と連携の強化
- 小児・周産期医療、旧郡部などにおけるへき地医療の確保

地域の医療提供体制の将来のあるべき姿

高度急性期・急性期機能

- 疾病に応じ、医療機関ごとの機能を明確化し、医療機関が担う医療機能の集約化が必要です。
- 医療機関間の役割分担・相互連携による医療提供体制の整備が必要です。
- 患者の状態に応じ、圏域内において機能の確保を進め、あわせて広島西医療圏、広島医療圏等との連携による医療提供体制の整備が必要です。
- 小児・周産期医療体制の充実が必要です。

回復期機能

- 圏域において不足している回復期機能を確保し、居住地での円滑な在宅復帰を支援するため、急性期を担う医療機関を除く医療機関において、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟等の整備が必要です。

慢性期機能・在宅医療等

- 在宅医療提供体制の充実強化や介護施設等の受け皿の確保が必要です。
- 病状変化時に患者を受け入れる後方支援医療機関（有床診療所を含む）の整備が必要です。
- 医療・介護を担う多職種による連携体制の構築が必要です。

医療連携等

- 医療機関間の役割分担・相互連携を進めるとともに、関係者が相互に医療情報を共有する体制の構築が必要です。
- 旧郡部等のへき地医療を維持・確保するための体制の構築が必要です。
- 認知症患者への対応を強化するため、一般病院と精神科病院との連携体制の構築が必要です。

### ③ 自施設の現状

#### 病院の理念

地域の医療を支援する病院としての責務を自覚し、生命の尊厳と個人の権利を守り、社会復帰へ向けての責任ある質のよい医療を提供することを目指します

#### 届出入院基本料

入院基本料	病床数	平均在院日数	稼働率
急性期一般入院料1（2階病棟）	38床	11.5日	74.1%
地域包括ケア病棟入院料1（3階病棟）	48床	28.0日	79.1%
地域包括ケア病棟入院料1（4階病棟）	48床	28.3日	81.4%
回復期リハビリテーション病棟入院料1（リハビリ病棟）	50床	71.3日	81.6%

手術症例数 558例（整形外科）救急搬送受入数 715件

平成30年7月1日～令和元年6月30日

#### 特徴

急性期一般、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、の3種類の病棟を有し、急性期から回復期の入院医療を担っている。急性期病棟では整形外科手術を中心に内科疾患の患者の受入も行ってあります。回復期リハビリテーション病棟では脳血管疾患を中心に受け入れており、充実した施設・専門のスタッフによるリハビリを提供している。

地域包括ケア病棟では、自院の急性期病棟や前方医療機関での急性期治療後の患者の受入や、在宅療養中の患者の急変時の受入やレスパイト入院等多様な患者の受入を行っている。

地域包括ケア病棟でも、回復期リハビリテーション病棟と同様の施設・スタッフによるリハビリを提供している。また、透析施設を備えており、各病棟において、人工透析が必要な患者の受入が可能となっている。

外来では、腎臓内科、整形外科、ペインクリニック内科、リハビリテーション科等の専門外来を行っております。また、自閉症スペクトラム症などの発達障害児に対する療育も積極的に行っています。

また、在宅療養支援病院の基準を取得するとともに、緩和ケアを中心とした訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ等の在宅医療・サービスを提供し、急変時の入院の受入を行っている。

### ④ 自施設の課題

深刻な医師不足により、救急医療、急性期医療の縮小を余儀なくされたが、病棟を再編し回復期機能や在宅療養を支える機能を充実させてきた。救急医療・急性期医療を維持するため常勤医師の確保に努めるとともに、地域包括ケアシステムの中で中心的な役割を果たせるよう、地域連携をより一層強化していく必要がある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

#### ①地域において今後担うべき役割

・急性期医療

整形外科の手術・内科系の急性期

・回復期リハビリテーション・地域包括ケア

他の医療圏に流出している回復期の患者の受け皿として受入の強化し、岩国医療圏の患者さんが、自宅の近くの病院で安心して療養・リハビリが行えるために機能強化及び連携強化を図る。

また、地域包括ケア病棟では、ポストアキュート機能に加えて、在宅医療の後方病床としての機能を強化していく。

在宅療養中の患者さんの増悪時の受入やレスパイト入院の受入など「ときどき入院ほぼ在宅」を支援する体制を構築する。

・訪問事業

訪問診療・訪問看護・訪問リハビリを充実させて在宅療養を支援する。

#### ②今後持つべき病床機能

急性期一般病棟

地域包括ケア病棟

回復期リハビリテーション病棟

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	99		38
回復期	102		143
慢性期			
(合計)	201		181

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	地域連携の強化 回復期機能の強化	4月 急性期病棟60床を地域包括ケア病棟に転換  1月 回復期リハ病棟の類上 2月 病床削減 201床 ⇒ 184床 3月 地域包括ケア病棟1類上	
2018年度	地域連携の強化 回復期機能の強化 在宅医療を支援する機能の強化 常勤医師の確保 へき地医療への貢献	4月 訪問看護事業開始 地域包括ケア病棟の類上 5月 在宅療養支援病院 取得 8月 回復期リハ病棟の類上  201床 ↓ 184床	
2019～2020年度	評価と見直し	184床 ↓ 181床  前年度までの取組みの評価と見直しを行う	
2021～2023年度	評価と見直し	前年度までの取組みの評価と見直しを行う	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病床稼働率：90%</li> <li>・ 手術室稼働率：700/件</li> <li>・ 紹介率：85%</li> <li>・ 逆紹介率：100%</li> </ul> <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費率：55%</li> <li>・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：0.5%</li> </ul> <p>その他：</p>
---

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--